

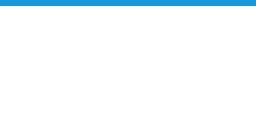
災害なんかに負けない地域をつくろう!

安全第一 ～常に最悪の事態に備えよう～

熱田区白鳥学区 震災避難行動マップ

この震災避難行動マップは、名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震の避難想定」をもとに、大規模地震が発生した場合を想定して、白鳥学区の住民が、お住いの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。
この震災避難行動マップをもとに「いざ」というときどんな行動をとればよいか日ごろから考えておきましょう。

町内会の一時集合同所



地域の避難先の例

延焼拡大した火災から避難する場合 → 指定緊急避難場所へ

津波から避難する場合 → 想定浸水区域外または高台へ

※学区内には被害想定なし → 高台等へ避難する余裕がなければ津波避難ビルへ

家屋の倒壊またはそのおそれがある場合 → 指定避難所へ

※自宅に被害が少ない場合はなるべく自宅で生活しましょう。(裏面参照)

指定避難所一覧

- ① 白鳥小学校
- ② 宮中学校
- ③ 白鳥コミュニティセンター
- ④ 東海工業専門学校
- ⑤ 南養護学校

指定緊急避難場所一覧

- A 熱田神宮
- B 神宮東公園
- C 大瀬子公園

学区特性

- ・津波被害は想定されていない
- ・津波浸水エリアからの避難(瑞穂区、港区、南区など)
- ・鉄道駅で帰宅困難者が発生
- ・幹線道路が集中(国道1号線、大津通)

役に立つもの!

1. コンビニエンスストアなど

「災害時帰宅支援ステーション」として、公共交通機関が不通となった時、徒歩で帰宅しようとする人たちを支援する店舗もあります。トイレや避難スペースの提供など災害時可能な範囲で協力が得られます。

2. 地域防災協力事業所

災害時に地域に対して協力してくれる事業所です。

3. 公衆電話

NTTが設置する公衆電話は、災害時に優先的につながり、状況に応じて無料になります。

4. 災害救援自動販売機

対象となる自動販売機には、停電時でも飲料提供ができることが説明された看板がついています。

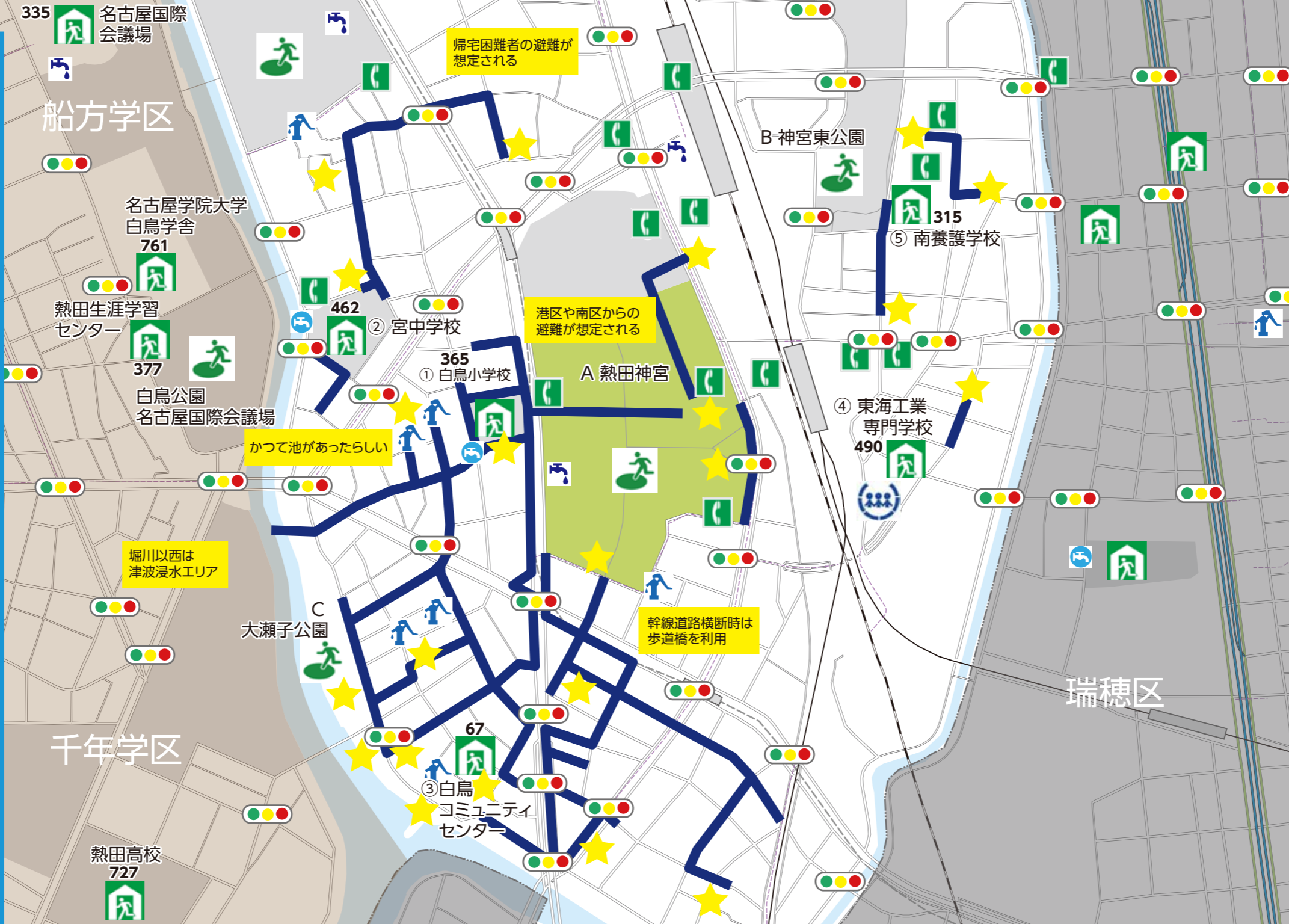
5. 下水道直結式仮設トイレ

マンホールに直結できる仮設トイレです。避難所のトイレ不足を補います。



6. 津波避難ビル

大津波警報が発表されたとき、高台への避難が困難か、避難する時間がないときなどに一時的に避難する施設です。



気を付けて!

1. 空き家

耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険あり

2. 古いブロック塀

大きな地震では倒壊する危険があるため近づかない

3. 自動販売機

大きな地震では倒れる可能性あり

4. 隆起したマンホール

液状化によりマンホールがせり出してくる可能性あり
車両走行中は特に注意

5. 狭い道

近くの家が倒壊したとき、道がふさがれて通りにくくなる可能性あり



6. 電線

切れた電線は停電時でも感電の危険があり、絶対に近づかない

【凡例】



指定避難所
*数値は避難者数



指定緊急避難場所



地域防災協力事業者



避難経路



集合場所



公衆電話



地下式給水栓



応急給水栓



災害応急用井戸

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平28情使、第307-GISMAP37608号)

制作:白鳥学区

協力:熱田区役所、熱田消防署
あつた災害ボランティアネットワーク

このマップには再生紙を使用しています。

熱田区白鳥学区 災害時の特性と対策

南海トラフ巨大地震が発生した場合、名古屋市の中でも比較的強い**震度6強**の揺れが想定されます。まずは身を守りましょう。このときに怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。

また、**液状化現象**が起きる可能性が高い箇所がいくつかあります。建物が傾いたり、路上に泥水が溢れ出し、通ることができなくなります。これらを踏まえ、適切な避難先と、そこまで安全にたどり着くための経路をあらかじめ考えておきましょう。

地震発生！ 災害時の対応

揺れた

- 身の安全の確保
 - ・頭を守り揺れがおさまるまで待つ
 - ・安全に消せる場合は火を消す
 - ・家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



丈夫な机がない時は、クッション、かばん、ナベなど身近にある物で頭を守りましょう

安全にすばやい避難行動をとるためにも、**自宅の耐震化や家具転倒防止対策**は日頃からしっかり進めておきましょう



揺れがおさまった

- 火が出たら初期消火
- ガスの元栓を閉める・ブレーカーを落とす
- 怪我をしないように靴やスリッパをはく
- 家族の安否・家屋の被害状況の確認
- 出入り口の確保
- ラジオやスマートフォンなどからの正しい情報の入手
- 非常持ち出し品の準備
- 避難する際の戸締り ●ご近所の安否確認

地域には、町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救護等の活動を行います。地域の被害を小さくするため、自主防災組織の活動にご協力をお願いします。



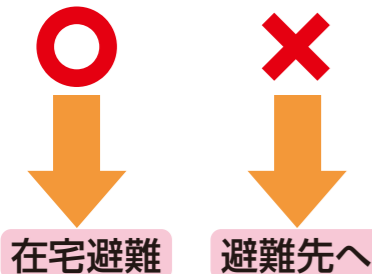
高台や津波避難ビルを目指して避難開始

【参考】津波から安全に避難するための5つのポイント

- 1 揺れが収まったら高台へ。時間が無ければ津波避難ビルへ避難！
- 2 原則徒歩で避難！
- 3 高齢者や障がいのある方などの避難誘導を！
- 4 引き返さない。安全確認が済むまで避難継続を！
- 5 海岸や川沿いは絶対に近づかない！

津波警報解除
避難勧告解除

災害の危険解消
自宅での滞在が可能か



【参考】津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	10m (5m<予想高さ≤10m) 5m (3m<予想高さ≤5m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	3m (1m<予想高さ≤3m) 1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

在宅避難の目安

避難所では、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は下記の点に留意して自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。

- 家が倒壊した、または余震が来たら家が倒壊しそう
- 家中に物が散乱して動くと危険
- 火事や津波の危険が迫っている
- 自分で身体を動かしたり、物事を判断することが難しい
高齢者や障がい者がいて、家族だけでは対応できない
- 自宅のライフラインが止まり日常生活が送れない
- 家にいると、とにかく不安で仕方がない



プライバシーもなく悲惨な熊本地震の避難所の様子

一人で逃げるのが難しい方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げるのが難しい方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

(例えばこんな方)

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障がいのある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など

移動が難しい方

(例えばこんな方)

普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど

避難の時の豆知識 非常持ち出し袋を準備しましょう！

避難する時に持っていくもの

防災用品

- 携帯ラジオ
- ヘルメット・防災ずきん
- 軍手
- マスク

照明等

- 懐中電灯(電池含む)
- マッチ・ライター

食器類

- はし・スプーン
- 紙皿・紙コップ

衣料品

- 衣類(着替え)
- タオル(大小2種類)

貴重品

- 現金(小銭も必要)
- 預(貯)金通帳の写し
- 健康保険証・免許証の写し
- カード類
- 認印・印鑑など

医療用品

- 三角せん
- 包帯・ガーゼ
- ばんそうこう
- 消毒薬
- ウェットティッシュ(ティッシュ)
- お薬手帳の写し

便利用品

- 筆記用具
- 新聞紙
- 携帯用トイレ
- ゴミ袋
- キッチン用ラップ
- 使い捨てカイロ
- 雨具
- 手動携帯電話充電器



日頃から水や食料を準備しておきましょう。めがね・入れ歯・持病の薬も忘れずに！



ラップをお皿に置いて節水

